

21 *p* *mf* *p*

き か じ こ と わ り そ は こ こ ろ な し い わ じ あ

p *mf* *p* [*mf*]

26 *mf* *p*

き ら め そ は な さ け な し な み だ は な み だ

mf

31 *p* *f* *ff*

の ち る に ま か せ よ あ あ あ あ

ち る に ま か せ ち - る に ま か せ よ あ

p *f* *ff*

36 *ff* *pp* *pp*

あ - あ な み だ な み だ を

あ - し の ぶ も な み だ な み だ

お も う も な み だ - な み だ

41

た だ た て
 ぬ さ に た だ た て ま つ る な み だ を ぬ さ に
 た だ た て

46

ま つ る
 た て ま つ る あ あ い づ く そ や
 ま つ る

51

い づ く そ や き み が み た ま

當時吾がピアノの教へ子なりし徳川頼貞氏の令弟治氏の不慮の死を悼みて捧げたる曲。壯嚴に且つしめやかに歌はるべき哀悼曲也。(大正二年二月作)

「涙の幣」(吉丸一昌作詩/本居長世作曲)の校訂報告

2007年4月15日

資料 春秋社 1930年5月15日発行「世界音楽全集第9巻日本合唱曲集」

歌詞 歌詞は現代仮名遣いに改めた。原詩は次ページを参照。

コメント 強弱記号、アクセント、その他の記号に関して、混声合唱の4パートがホモフォニックに進行している部分であっても、上段にしか記されていないものと、上段、下段の両方に記されているものが混在している。資料として用いた楽譜にできるだけ忠実に配置した。第48小節の歌詞だけ、原詩では「嗚呼」となっているので、資料では「あ」となっているが、本楽譜では「ああ」とした。

疑問点1 第9小節第1拍のソプラノおよびアルトの歌詞は前の拍からのタイによる長音「-」である(譜例1)のに対し、再現部の第36小節第1拍のソプラノおよびアルトの歌詞は、前の拍からのタイではあるが「あ」となっている(譜例2)。第11小節第1拍のソプラノの歌詞は「-」である(譜例1)のに対し、再現部の第38小節第1拍のソプラノの歌詞は「あ」となっている。

譜例 1

譜例 2

歌詞は「嗚呼」となっていることを念頭に入れて、発語に関して伸ばすか言い換えるかを検討してください。

疑問点 2

第 25 小節バスパート第 1 拍のみに *mf* が付されているが、音形が第 21 小節の繰り返しであることを考えに入れると、一つは *p* とする考え方と、もう一つは前の小節の強弱を受けるという考え方があると思う。本楽譜では、この *mf* に [] を付した。資料の楽譜では第 25 小節の歌詞は「いはじあきらめ」となっているが、資料の巻末に掲載されている歌詞では「いはばあきらめ」となっている。原詩がどうなっているかは現在調査中。

The image shows a musical score for the 25th measure. It consists of two staves: a treble clef staff (piano) and a bass clef staff (bass). The piano staff has a treble clef and a key signature of one flat. The lyrics are written below the piano staff. The dynamic markings are *p* (piano) and *mf* (mezzo-forte). The *mf* marking is enclosed in square brackets [] in the original image. There are two red circles: one around the note 'あ' in the piano staff and one around the note 'あ' in the bass staff.

星流れて永久にかへらず
露碎けて終に結ばず
嗚呼思ふも涙 忍ぶも涙
涙を幣に唯奉る 唯奉る
聞かじ理 そは心なし
いはばあきらめ そは情なし
涙は涙の散るに任せて
嗚呼思ふも涙 忍ぶも涙
涙を幣に唯奉る 唯奉る
嗚呼 何處ぞや 君が御霊

涙の幣

吉丸一昌

こちらの歌詞は資料の巻末に掲載されていたものです。